

第 236 回 昭和の森自然観察会

みつかるかな トンボの王様「オニヤンマ」

花島 伸美（千葉市）

日 時：2011 年 8 月 14 日（日）13 時～15 時 天候：晴れ

参加者：42 名（大人 18 名 子ども 24 名） 指導員 15 名

担当指導員：佐藤一枝、佐野由輝、花島伸美

＜今日のテーマ＞

夏休み中とあって、捕虫網を手にした親子連れが数多く参加してくれた。昭和の森にいる数多くのトンボの中でも、夏はやはり日本一大きいオニヤンマが代表であろう。オニヤンマは成虫だけでなく、幼虫、羽化殻も観察しやすいので、今回は幼虫→羽化殻→成虫の観察を通して、オニヤンマの一生を理解してもらうことをポイントとした。

また、昭和の森には他にもたくさんのトンボがいるので観察コースを林縁、調整池、中菖蒲田、下夕田池と移動しながら、水辺の環境の違いによって生息するトンボの種類も違うことを見てもらった。

＜当日見られたオニヤンマの行動＞

- ① パトロール…水路の上を水平に往復する。産卵のためにやってくるメスを縄張りで待ち受ける行動。スピードはゆったりとしている時も、速いときもあった。
- ② 縄張り行動…空中を飛んでいるオスの下から突き上げるようにして侵入してきたオスを追いかける。縄張りに来たオスを追い出す行動。
- ③ おつながり…オスがメスの頭部をはさみ、林の中へ移動する姿が見られた。オスとメスが出会い、交尾行動へ適当な場所へ移動する。
- ④ 産卵行動…調整池脇の水路や中菖蒲田でメスが産卵弁を突き立て、砂泥底に卵を産みつける姿が見られた。かなりの回数で、他の場所であるが 100 回以上数えられたと言う指導員もいた。
- ⑤ 止まっている姿…オニヤンマは、飛び出すとあまり止まらない「飛翔型」だが、葦原で翅を広げ、かなり長い間止まっている姿が見られた。捕りたい気持ちを抑えて班の皆で観察した。



＜羽化殻とヤゴ＞

- ・羽化殻は、7 月の方が数多くあった。羽化し始める 7 月中旬から雨が多く、風で飛ばされたものもあっただろう。草の中に隠れるようにしてつかまっている羽化殻を見つけるのは宝探しのようだ。
- ・ヤゴは午前中の下見の時に捕獲しておいた。初めて見る生きているヤゴを、これがトンボになるのかと不思議そうに触ってみたりした。成虫になるために 2~4 年かかるのでその間、水辺の環境が変わらないことが生きていく条件であること、同じように水路に生息しているホタルの幼虫をヤゴが食べてしまうため、ホタルにとては敵であることを説明した。

＜その他のトンボ＞

林 縁…ノシメトンボ、コノシメトンボ、マユタテアカネ、マイコアカネ、ナツアカネ
調整池・中菖蒲田…シオカラトンボ、オオシオカラトンボ

下夕田池…ショウジョウトンボ、チョウトンボ、ハグロトンボ、コシアキトンボ、
アオモンイトトンボ、アジアイトンボ、クロイトトンボ